

令和5年度 登米市水道事業会計・下水道事業会計 決算概要と経営状況

私たちの生活に欠かせない上下水道は、運営に必要な費用のほとんどをお客様からいただいた水道料金収入・下水道使用料(以下「料金等収入」という。)でまかっています。このような経営の原則を「独立採算制」と言います。

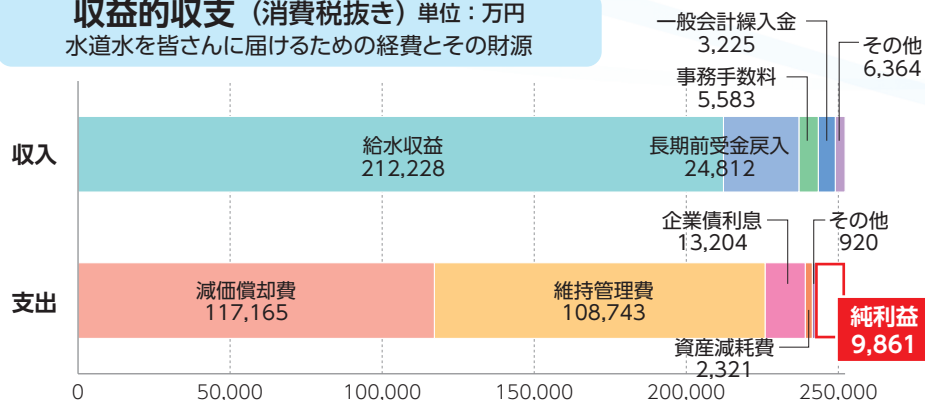
令和6年度登米市議会9月定期議会において、令和5年度水道事業会計及び下水道事業会計決算が認定されましたのでお知らせいたします。



1. 水道事業の決算報告

収益的収支(消費税抜き) 単位: 万円

水道水を皆さんに届けるための経費とその財源



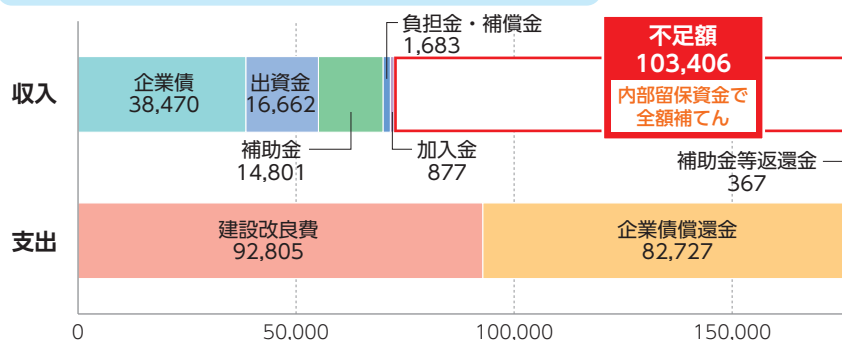
収入の約85%を占める給水収益(水道料金)は、料金改定の影響により、前年度より8,983万円増加しました。

支出は、資産の減価償却、維持管理費の縮減により、前年度より2,080千円減少し、当年度の純利益(黒字)は9,861万円となりました。

業務活動では資金が得られ、かつ借入残高を減少させながら業務を行うことができ、比較的安定した経営状況となりました。

資本的収支(消費税込み) 単位: 万円

水道施設を整備するための経費とその財源

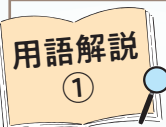
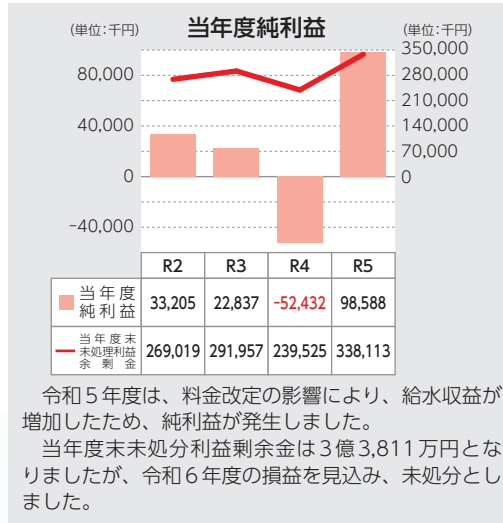
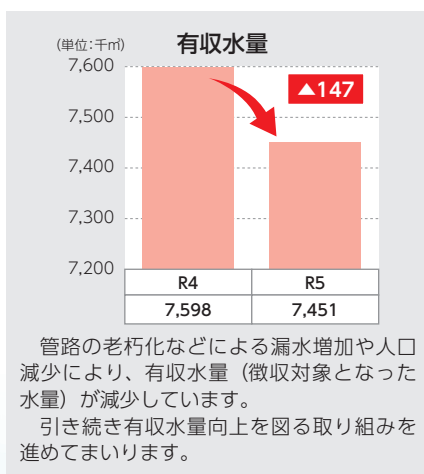
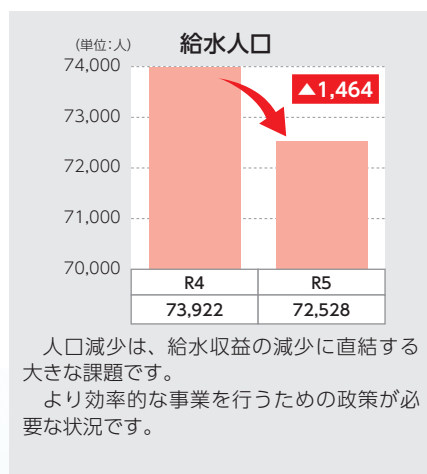


保呂羽浄水場再構築事業の設計業務や基幹管路の更新事業などを行いました。

企業債(国からの借金)の借入や補助金などによる収入は7億2,493万円となりましたが、工事費や過去の企業債返済などに要した支出は、17億5,899万円となりました。

収入と支出の差額10億3,406万円は、内部留保資金で全額補てんしました。

水道事業の事業推移



減価償却費・・・事業で使用する固定資産(建物や管路など)をそれぞれの耐用年数に応じて取得価格を分割し、経費計上する会計処理の方法のこと。現金の支出はありません。

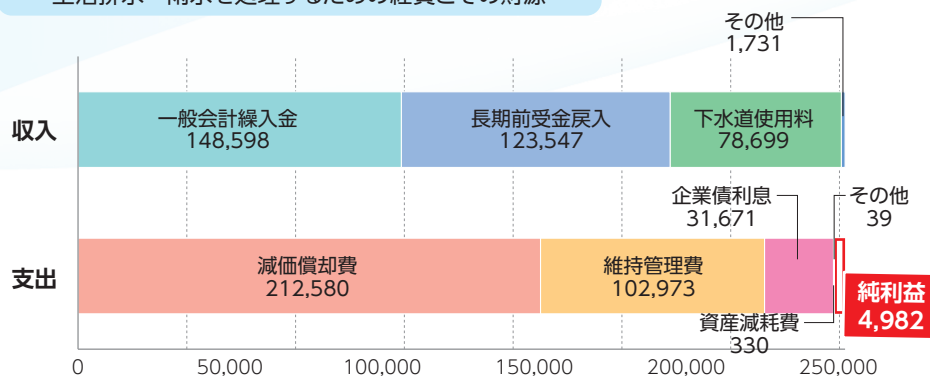
内部留保資金・・・減価償却など、現金支出がない費用を計上した際、その分の現金は企業の内部に貯蔵されているものとして使用できる資金のこと。資本的収支における投資や損失補てんのために使用できます。



2. 下水道事業の決算概要

収益的収支（消費税抜き）単位：万円

生活排水・雨水を処理するための経費とその財源

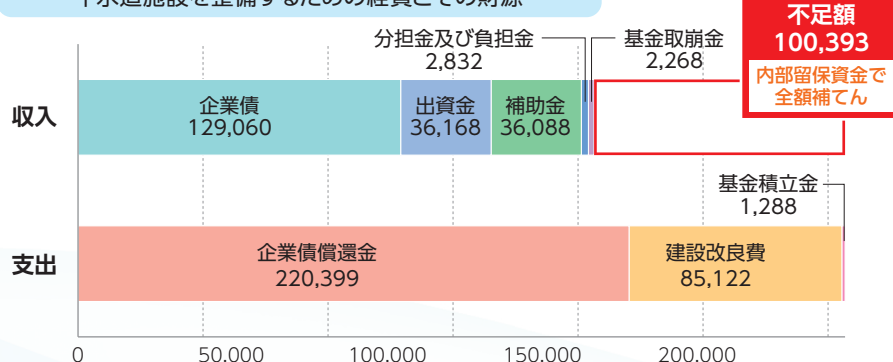


下水道使用料は、前年度より4,527万円増加しましたが、収入全体の22%に留まり、多くを一般会計からの繰入金に依存している状況です。

支出は、資産の減価償却、維持管理費の縮減により減少しているものの、施設統廃合の協議を進めるなど、環境に適した資産管理を進めてまいります。

資本的収支（消費税込み）単位：万円

下水道施設を整備するための経費とその財源



汚水管や佐沼大東地区雨水排水路の整備などを行いました。

下水道事業は多くの資産（処理施設など）を抱えており、多くは企業債を財源としています。

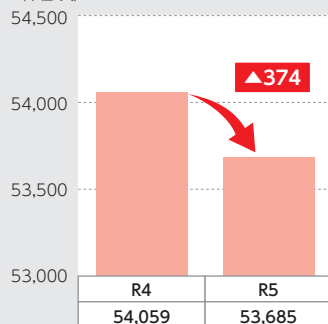
当年度の返済額は22億399万円と、支出の70%以上を占めています。

収入と支出の差額10億393万円は、内部留保資金で全額補てんしました。

下水道事業の事業推移

水洗化人口

(単位：人)

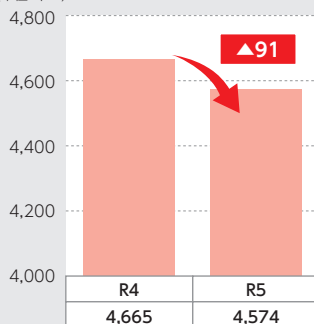


水道事業と同様に、人口減少は、使用料収入の減少に直結します。

より効率的な事業を行うための政策が必要な状況です。

有収水量

(単位：千m)

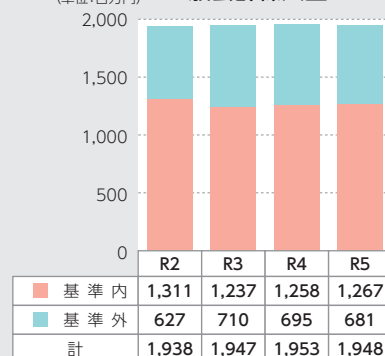


人口減少により、有収水量（徴収対象となった水量）が減少しています。

引き続き有収水量向上を図る事業を進めてまいります。

一般会計繰入金

(単位：百万円)



一般会計繰入金は、近年20億円弱で推移しています。使用料改定により、今後は19億円程度で推移する見込みのため、更なる経費削減に努めるとともに、適切な使用料設定に向けた検討を進めてまいります。

用語解説

②

一般会計繰入金とは？

法律などに基づき一般会計から公営企業会計へ繰り入れられるお金のことを基準内繰入金と言います。これ以外の繰入金を基準外繰入金と言います。

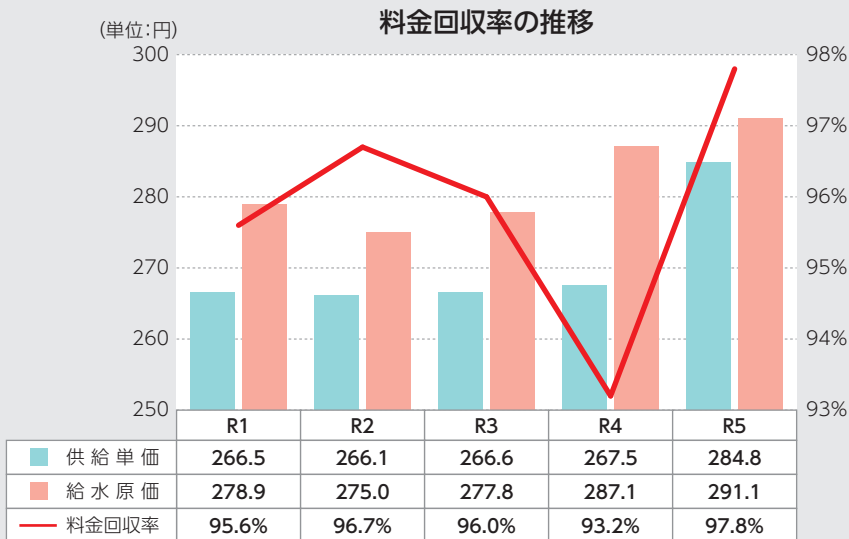


3. 経営状況

市では、人口減少などを背景に料金収入等が減少する中、将来にわたる持続的な上下水道の実現に向け、また大規模災害に備えた施設、管路整備などを着実に進めるため、令和5年9月に料金等改定を行いました。

ここでは、料金等改定を行った結果、上下水道事業の経営状況はどう変化したのか、報告いたします。

① 水道料金改定による経営状況



用語解説

③

料金回収率とは？

給水に要する経費が給水収益（水道料金）でどの程度賄われているかを見る指標で、100%を超えることが望ましいとされています。

料金回収率＝供給単価／給水原価

供給単価・・・利用者の方からいただいた給水収益1㎡当たりの単価

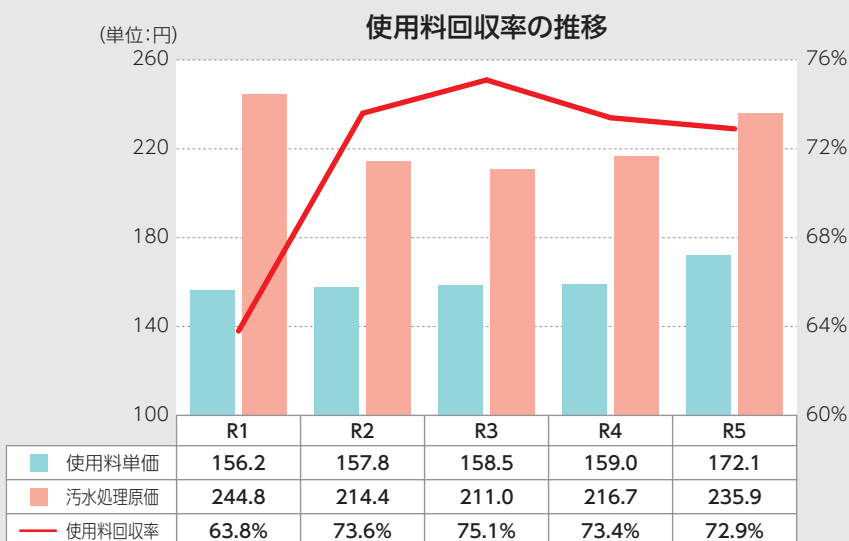
給水原価・・・水道水1㎡をお届けするのにかった経費

平成30年度以降100%を下回っている料金回収率は、料金改定の影響で前年度より4.6%上昇した97.8%となりました。また、料金収入の増加で純利益が発生し、比較的安定した経営状況となりました。

今後、災害対策や管路耐震化を一層進め、利用者のサービス向上といつでも使用できる水道を維持できるよう努めてまいります。

一方で、人口減少の影響により供給単価、給水原価は上昇しており、利用者一人当たりの負担は今後も増加が予測されます。できる限り利用者負担を抑制できるよう、多方面からのアイデアや知見を取り入れながら効率的な経営へ繋げてまいります。

② 下水道使用料改定による経営状況



用語解説

④

使用料回収率とは？

汚水処理に要する経費が下水道使用料でどの程度賄われているかを見る指標で、100%を超えることが望ましいとされています。

使用料回収率＝使用料単価／汚水処理原価

使用料単価・・・利用者の方からいただいた下水道使用料1㎡当たりの単価

汚水処理原価・・・汚水を1㎡処理するのにかった経費

使用料回収率は、前年度より0.5%低下の72.9%となりました。

依然、事業に必要な経費を使用料収入で賄えていない厳しい状況ですが、使用料改定により回収率の急激な低下を抑止することができました。

しかし、水道事業と同様に、人口減少の影響により使用料単価、汚水処理原価は今後も増加が予測されます。今後も維持管理などの経費の縮減や適切な使用料の見直しを継続してまいります。

4. 上下水道事業の取り組み

ここでは、前頁での経営状況の変化を踏まえ、今後の上下水道事業の取り組みについてご紹介します。

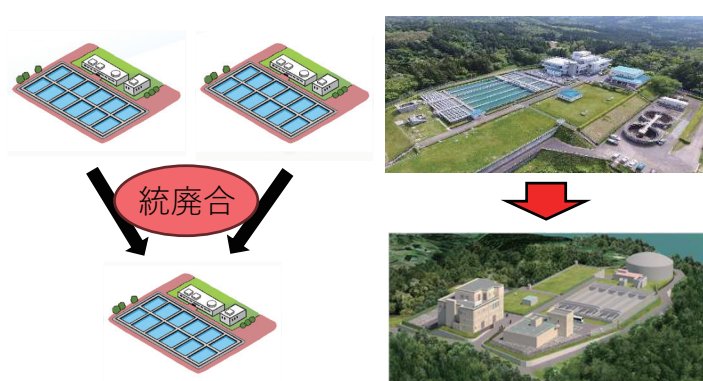
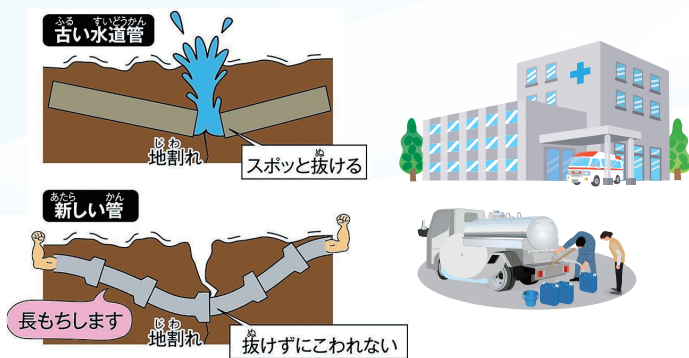
① 水道事業 ⇒ 投資とリスク管理

耐震性のある管路工事を進め、水道管の長寿命化を図るとともに、漏水の削減、断水の起こらない水道を目指します。

災害時に拠点となる施設への管路耐震化に投資し、災害時でも水道が使用できるまちづくりを進めます。

支出の大部分を占める施設の維持管理費などを削減し、効率的な経営を目指すため、施設統廃合を進めます。

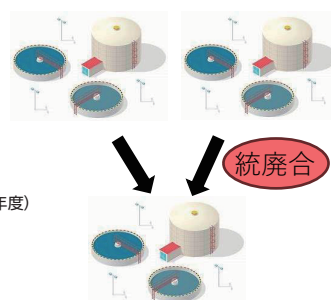
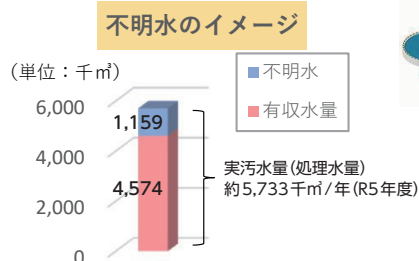
保呂羽浄水場再構築を進め、現代環境に適した浄水機能、耐震性を有した浄水場にレベルアップします。



令和11年度完成予定
(完成イメージ)

② 下水道事業 ⇒ 効率的な経営戦略

老朽管の管路更進行うなど、不明水対策を進め、不要な汚水処理を減らすことにより、経費削減を図ります。



支出の大部分を占める施設の維持管理費などを削減し、効率的な経営を目指すため、施設統廃合を進めます。

5. お知らせコーナー

人工衛星を活用した漏水調査について

本市では今年度より、他事業体と協定を結び、人工衛星を活用した漏水調査を行います。

- ①人工衛星から地上にレーダーを当てる
- ②反射されたレーダーにより漏水エリアを特定



- ③漏水範囲・箇所発見の精度向上
- ④漏水量の削減

水道水中の有機フッ素化合物PFAS(ピーファス)への対応

市では、市内へお届けする水道水について、有機フッ素化合物(PFAS)の一種であるPFOS及びPFOAを定期的に水質検査を実施しています。

これまでにPFOS・PFOAが検出されたことはありませんので、安心して水道水をご利用ください。

漏水などを発見した際のお問い合わせについて

漏水を発見した場合、または蛇口から急に水が出なくなった場合などは、水道施設課 TEL0220 (52) 3312 へご連絡下さい。

【問い合わせ先】
(令和6年11月20日発行)

登米市上下水道部 経営総務課 TEL 0220(52)3313
Mail:suidosomu@city.tome.miyagi.jp
ホームページ ▶tome-suido.com

